

STORY 4

「人、モノ、情報が行き交った
街道と宿場町の物語」

Route

「豊前街道の 歴史と文化に触れる旅」



豊前街道南関御茶屋跡

人が行き交い
文化と街を作った
豊前街道の歴史

熊本より北上し山鹿、南関を経て小倉へと通る豊前街道。参勤交代時以外でも多くの人々が往来し、多くのモノや情報を伝え、独自の文化を生み出してきた。そんな宿場町の往時の賑わいを偲ばせる文化は、今も地域の人々の生活に根付いており、現在の大きな観光資源ともなっている。

山鹿市



八千代座

明治43年築の芝居小屋。こけら落としの大歌舞伎に始まり映画や芸術座公演など連日満員で賑わった。昭和40年代に一旦閉鎖したが、その後、市民による募金活動で修理され、昭和63年、国の重要文化財に指定された。現在も歌舞伎や映画撮影などに活用されている。

南関町

豊前街道 南関御茶屋跡

肥後細川家の藩主が参勤交代などの際、休憩・宿泊した施設。建物は、南北に長い造りで、御居間、御次の間、三の間が配されている。御茶屋として県内で唯一残った国指定史跡。



山鹿市

さくら湯

約370年前の肥後細川藩の御茶屋として愛された名湯。その後市民の声により平成24年10月に生まれ変わり、昭和48年の解体前の唐破風の玄関、内観は昭和33年改修前の姿に。



山鹿市

光専寺

山鹿の先人のお墓が多くあり、江戸・明治の歴史に触れることができる。堂々とした楼門は加藤清正が熊本城を築城した際に余った木材で作られたと言われており、熊本城は西南戦争で消失しているので、光専寺の楼門が古いことになる。